

平成 19 年度 大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動計画

鳩ノ巣連絡協議会

[はじめに - 活動のための現状認識 -]

平成 18 年度「活動報告書(別紙)」の通り、多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動は順調に推移しているが、今年度(平成20年3月)をもって東京都の大自然塾事業の予算措置が打切りとなり、第一次五ヵ年計画も終了となる。

「東京都主催」の旗印が消えても、長期に渡る“森づくり”からの撤退は“手がけた森”のためにも、山主及び地元住民のためにも許されず、NPO 法人森づくりフォーラムのもとでの「大自然塾事業」として継続することが確定している。これを前提に19年度の課題を整理すると

運営管理面

20 年度以降の活動を見据えた「鳩ノ巣連絡協議会」の体制維持
メンバーの増強

運営管理体制を含めた第二次五ヵ年計画の策定

20 年度以降の“自立”に向けた活動推進の運営方法の決定と
スタッフ及び一般参加者への告知 12 月までには

フィールド活動面

五ヵ年計画最終年度を念頭においた各フィールドへの取組み
「作業部会」活動による指導者層の育成

第二次五ヵ年計画を想定した参加ボランティアの固定と拡大化
自前作業用具の充実化

シカ食害対策の継続

蜂対策を含めた安全管理体制の継続強化

フィールド境界確定に伴う通称「フィールド(3)」への取組み方法

調査・データ収集面

調査と記録の継続推進

調査情報の活用

地元住民とのさらなる交流

19 年度においては、上記を包括した「計画案」として、以下を提出する。

[鳩ノ巣連絡協議会の体制]

関連団体:引き続き、樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体体制とするが、NPO 法人森づくりフォーラムとの連携のもとで、幅広く他団体および個人参加ボランティアの参加協力を求めていく。

運営方法:座長と事務局を置き、月1回の定例会における協議決定により運営する。なお、座長と事務局は関連団体者から任命するが、定例会参加者はこれにこだわらない。平成18年度に同じではあるが、20年度以降を意識した変革を模索するものとする。

出席者:関連2団体における現メンバー以外の出席者拡大に努める他、他団体・個人参加ボランティアの取り込みを図る。

[長期ビジョン・フィールドのあるべき姿・活動のあるべき姿・フィールドの将来像]

平成16年度に同じ。 *2003.5.12作成

長期ビジョン

委託された現在の鳩ノ巣・棚沢地区の森を「豊かな美しい森 = 多様性のある森」として創出し、奥多摩町の活性化に寄与することで、東京都「大自然塾」活動のモデル・フィールドとする。

フィールドのあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、将来の森の“姿”として以下を目指すものとする。

生物の多様性

資源の多様性

森林形態の多様性

活動のあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、市民ボランティアを含む多くの協力者とともに、以下を活動のあるべき“姿”として展開する。

活動メニューの多様性

森林施業の多様性

参加者の多様性

フィールドの現状認識と将来像(五ヵ年計画)

*別紙資料A「鳩ノ巣森林計画」参照。

[平成19年度活動計画]

1. 活動方針

「第一次五ヵ年計画の達成と20年度以降の活動に向けた運営体制づくり」

2. 活動の基本内容

2-1 年度10回の「多摩の森・大自然塾」イベントの運営を柱とし、五ヵ年計画の目標達成の活動を実行する。

2-2 月例の「鳩ノ巣連絡協議会」を開催し、定例のイベント運営の内容及び中長期ビジョンとの整合を図る。

- 2-3 関連2団体からの新たなる人材登用を含め、他団体及び個人参加ボランティアとの交流を促進し、イベント運営体制の強化を図る。
- 2-4 関連2団体は定例イベントとは別に、自主活動日を設け、目標とする作業計画の達成に努める。
- 2-5 地元住民との各種活動を通じた交流を促進するとともに、地元における林業文化の継承や新たな林業事業化の方向を共に考える基盤を作る。

3. 鳩ノ巣連絡協議会としての重点実施項目

3-1 活動自立化に向けた運営体制の構築

樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体を核にした運営スタッフ及びリーダーを増強するとともに、20年度以降の活動展開を想定し、他団体及び個人参加ボランティアにも呼びかけて協議会の運営体制を強化する。

3-2 各フィールドの将来像に基づいた作業計画の立案と実施

| | 現 在 | 将来の姿 | 平成19年度計画 |
|----------|--|---|----------------------------|
| フィールド | 2000年に皆伐した跡地 | 落葉広葉樹林 | ・下刈りと保育 ・捕植 |
| フィールド | 1999年に皆伐した跡地。 2000年3月に中間部にスギ・ヒノキを植樹 | 上部：落葉広葉樹 中間部：スギ・ヒノキの針葉樹 下部：花の咲く木を植樹 | ・下刈りと保育 ・残材整理 |
| フィールド | 1994年に皆伐した後地 | 天然更新の二次林 林班区分して針葉・落葉のモザイク林を形成 | ・道づくり ・植樹区域の下刈り ・地拵え |
| フィールド | 2002年に皆伐。 2003年3月に落葉広葉樹を植林 | 落葉樹林 | ・下刈りと保育作業 ・食害防止ネット張り |
| フィールド（1） | 1977年植栽地 ヒノキ林 | 美しく手入れのされたヒノキ林 | ・保育作業 ・観察と記録 |
| フィールド（2） | 1975年植栽地 スギ・ヒノキ林 | 美しく手入れのされた針葉樹林 | ・保育作業 ・観察と記録 |
| フィールド（3） | ?年植栽地 スギ・ヒノキ林 | *要検討 | *要検討 |

* 詳細は別紙資料 B「平成 19 年度フィールド別作業計画」参照。

3-3 「フィールド」の整備の促進

18年度の植樹祭で実施した上部・下部の植栽広葉樹の保育(下刈り)をメイン

としつつ、これまでの延長作業として「除伐を促進して保残木の保護と林床内の埋蔵樹種を萌芽させ、植生種を増加させるエリア」と「遷移のままに天然下種更新を促進させるエリア」とに分け、さらに小さな林班のゾーニングを行い、それに基づいた境界に散策道や作業道を設置していく。

* 別紙資料 C「フィールド 施業計画」を参照。

3-4 「作業部会」による活動

18 年度に続き、定例イベントでは危険を伴う作業、またさらなる森づくりのために不可欠な作業を推進するとともに、将来に向けた「人づくり・後継者づくり」のため、連絡協議会として実施する。

活動日：2007.4 月～2008.3 月 毎月 1 回+追加不特定日

* 別紙資料 D 作業部会「作業計画表」を参照。

3 5 作業道具の自前提供

「みどりの募金」等の助成金を獲得し、作業道具の充実化を図る。

3-6 通称「フィールド(3)」への取り組み案を作成する。

3-7 植生・資源調査の継続実施とデータ管理化

調査・データ管理の精度をあげるとともに、有用な蓄積を試みる。

4. イベントを通じた重点実施項目

4-1 参加ボランティアの固定 & 継続化及び拡大化

具体的には、鳩ノ巣フィールド“自立化”の PR を前提にした
常なる参加呼びかけ
「鳩ノ巣つうしん」の活用

4-2 地元住民との共同作業活動の推進

スタッフ・参加ボランティアと地元住民との共同作業により、イベントを盛り上げるとともに、鳩ノ巣フィールド“自立化”の共通認識を醸成していく

4-3 他団体会員及び個人活動者を含むリーダー・スタッフ体制の構築

具体的には
18 年度に続き、イベント終了後の懇談会の開催
“自立化”に向けた「鳩ノ巣クラブ」立ち上げを試行する

4-4 フィールド案内ノウハウの蓄積と共有化

新「大自然塾」活動の PR を含め、「中長期ビジョン」を前提とした新「フィールド案内マニュアル」を作成のうえ、リーダー・スタッフ間で共有し、さらなる新案内人登用も意図する

4-5 シカ食害調査の実施

これまでの植栽樹のシカ食害を随時調査し、記録する

4-6 蜂対策を含めた安全管理体制の強化を継続する

5. フィールド別作業活動計画とスケジュール案

フィールド毎の月別作業計画のもとで、イベント展開を図る。

* 詳細は別紙資料 B「平成 19 年度フィールド別作業計画」を参照。

[計画達成上の留意点]

1. 森づくりフォーラムへの要望

他団体及び東京都(環境局)とのコミュニケーション強化の推進

2. 東京都環境局への要望

「大自然塾」事業継続の働きかけ

都民に対する広報活動の強化

以上 平成 19 年 5 月 20 日

作成: 鳩ノ巣連絡協議会座長 岡田誓 (森林インストラクター東京会)